

平成28年度第2回山梨県富士山科学研究所課題評価の結果について

山梨県富士山科学研究所では、平成28年12月8日(木)に、当研究所において平成28年度第2回課題評価委員会を開催しました。

今回、評価対象になった研究課題は事後評価8件で、評価結果は、次のとおりです。

1 課題評価委員(別紙1) 委員長 平田 徹

2 評価対象研究課題

平成27年度に研究を終了した研究課題8件について、評価を行いました。

【 事後評価 8件 】

[基盤研究]

- ① 富士北麓の蝶類群集の定量的モニタリングによる温暖化影響と衰退種特性の解明 (H24～H27)
- ② 地域特性を考慮した自然公園の空間的利用区分に関する研究 (H24～H27)
- ③ 富士山地下水に含まれるバナジウムの中性脂肪増加抑制作用を安全に効率よく利用するための基礎的研究 (H25～H27)
- ④ 富士五湖・湖底堆積物の有機地球化学分析による自然環境変遷史の復元 (H25～H27)
- ⑤ 富士山五合目付近の外来植物の分布の現状把握に関する研究(H26～H27)

[特別研究]

- ⑥ 富士五湖(特に河口湖)の水質浄化に関する研究—湖底堆積物の物理的および化学的性状の把握— (H25～H27)
- ⑦ 富士山におけるニホンジカの個体群動態と個体数管理に向けた行動学的特性 (H25～H27)

[重点化研究]

- ① 急性高山病の要因を脳循環応答の面から検討する～安全な富士登山確立にむけて～(H25～H27)

3 研究課題に対する評価結果

- (1) 基盤研究、特別研究7課題に対する総合評価点(5段階評価)は、3.6～4.2(平均3.8)で、全ての研究課題について、「妥当」との評価結果でした(別紙2)。

〈 5段階評価 〉

- 5:非常に優れている。
- 4:優れている。
- 3:良好・適切である。
- 2:やや劣っている。
- 1:劣っている。

(2) 重点化研究1課題に対する総合評価点(5段階評価)は、3. 4で、「妥当」との評価結果でした(別紙2)。

〈 5段階評価 〉

5:非常に優れている。

4:優れている。

3:良好・適切である。

2:やや劣っている。

1:劣っている。

(別紙1)

山梨県富士山科学研究所課題評価委員会委員名簿

(任期:平成28年8月1日～平成30年7月31日)

職	氏名	所属・役職	専攻分野
委員長	平 田 徹	山梨大学大学院 教育学研究科 教授	生態・環境学
副委員長	石 原 和 弘	京都大学 名誉教授	火山物理学
委員	大 山 勲	山梨大学生命環境学部 地域社会システム学科 教授	地域・都市計画
委員	川 越 久 史	環境省自然環境局 生物多様性センター センター長	環境行政
委員	坂 本 宏 史	健康科学大学 理学療法学科 教授	神経解剖学
委員	原 澤 英 夫	国立研究開発法人 国立環境研究所 理事	環境工学

(別紙2)

平成28年度 第2回 富士山科学研究所課題評価委員会 評価結果

日時:平成28年12月8日(木)9:30~14:00
場所:富士山科学研究所 2階 第1会議室

課題評価の種類	研究種目	研究課題名	研究期間	評価点
事後評価	基盤研究	富士北麓の蝶類群集の定量的モニタリングによる温暖化影響と衰退種特性の解明	H24~H27	4.0
		地域特性を考慮した自然公園の空間的利用区分に関する研究	H24~H27	3.6
		富士山地下水に含まれるバナジウムの中性脂肪増加抑制作用を安全に効率よく利用するための基礎的研究	H25~H27	3.9
		富士五湖・湖底堆積物の有機地球化学分析による自然環境変遷史の復元	H25~H27	3.9
		富士山五合目付近の外来植物の分布の現状把握に関する研究	H26~H27	3.7
	特別研究	富士五湖(特に河口湖)の水質浄化に関する研究-湖底堆積物の物理的および化学的性状の把握-	H25~H27	3.6
		富士山におけるニホンジカの個体群動態と個体数管理に向けた行動学的特性	H25~H27	4.2
	重点化研究	急性高山病の要因を脳循環応答の面から検討する~安全な富士登山確立にむけて~	H25~H27	3.4

〈5段階評価〉
5:非常に優れている。
4:優れている。
3:良好・適切である。
2:やや劣っている。
1:劣っている。